

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和8年 1月22日

犬 山 市 議 会

議 長 大 澤 秀 教 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、調査の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和8年 1月 20日(火)
(2) 場 所	小牧市役所
(3) 形 態	会派 () : その他 (鈴木)
(4) 内 容	生ごみのたい肥循環制度 報告書別紙
(5) 成果・提言	報告書別紙



出張報告書 令和8年1月20日

生ごみのたい肥循環制度 (小牧市役所)

先日、草津市のバイオセラー社で、ヌーボー菌を活用したたい肥製造システムを学んだ。生ごみ投入後24時間でたい肥にさせる機械で、長野県高森町で実証実験中のシステムで、その効果には眼を見張るものがあった。

今回は、今年度小牧市が実証実験で取り組んでいる「生ごみのたい肥循環制度」を学んだ。小牧市は、過去に各家庭に2台ずつ家庭用生ごみ処理機のコンポストを配布した実績があり、それを活用して生成された乾燥生ごみを、市内3か所にある「資源回収ステーション」に持ち込みポイントを稼ぐと、資源用指定袋と交換するという制度。併せて、家庭用ごみ処理機の購入費用に一定割合の補助をすることで、制度の定着を図っている。

8月から始めた制度だが、執行率が高く、当初6,000千円の予算を3,000千円増額したほど。1月13日時点で執行率79%と好調。

ちなみに小牧市は、生ごみのリサイクルに注力しており。リサイクル率37%は全国6位とのこと、以前からその意識の高さがうかがえる。今回の事業の人気ぶりも、そのあたりの民意が反映されていると感じる。

市内3か所で受け入れた乾燥生ごみは、市の職員がたい肥化させ、市主催の環境フェアで無料配布しており人気だとのこと。シルバー人材センターへの委託は考えていない様子。会計年度任用職員が市域全体の集積所をパトロールしており、その仕事の合間にたい肥作りをしているとのこと。

市民への告知は、広報、HP、SNSのほか、補助制度がある生ごみ処理機の販売店にもポスターを掲示してPRしているとのこと。

私が小牧市訪問前に調べたところ、Komham社というメーカーが、太陽光パネルを装備した24時間でたい肥化させる機械を導入している様子だったが、実際のところは、前述の環境フェアで試験的に導入しただけだった。本格導入をためらう理由はコスト。1台3,000千円くらいするとのこと、そこがネック。

今年度、この事業は試験的に展開しており、来年度以降本格的に実施するか否かは、今後検討するとのこと。Komham社の機械も同様。

犬山市への提言。

令和10年に新ゴミ焼却場が稼働すると、輸送コスト、輸送時間どちらも大幅に増えることが想定される。この1カ月の間に、2件の事例を研究することができたことは、今後、新たな提案をするのに有効。隣の小牧市が生ごみリサイクル率全国トップクラスであることから、小牧市から学べるノウハウはきっとあるはず。

今後、さらに他自治体等の事例を研究し、犬山市にとってどのようなごみ減量対策が有効か判断しつつ、提案していきたい。

以上